ワンツーフィニッシュを決めた宇都宮ブリッツェンの小野寺（左）と岡＝大分市内、小森信道さん撮影

小野寺、岡 ブリッツェン ワンツー

自転車 JPT第20戦

自転車ロードレースの

Jプロツアー（JPT）第20戦「おおいたいこいの道クリテリウム」は14日、大分市内のいこいの道周辺特設周回コース（1・1キロ×31周＝34・1キロ）で行い、宇都宮ブリッツェンの小野寺玲が優勝、岡篤志も2位に入り、ワンツーフィニッシュを飾った。小野寺は今季2勝目、チームとしては第19戦輪島ロードレースに続いて4勝目を挙げた。

レースは序盤からアタックの応酬が続き、終盤までチームランキング首位のマトリックス・パワータグが集団をコントロールした。終盤に攻撃を開始した宇都宮ブリッツェンが主導権を奪い、最終周回に阿部愛之らベテラン勢のアシストを受けた小野寺がスプリントを開始し、そのまま先頭に立ってフィニッシュした。那須ブラーゼンの最高位は7位の下島将輝だった。

第21戦は15日、同市大分スポーツ公園大銀ドーム周辺で「おおいたサイクルロードレース」を行う。

▽PP1（1・1キロ×31周＝34・1キロ）①小野寺玲（宇都宮ブリッツェン）43分17秒②岡篤志（同）43分17秒③アイラン・フェルナンデス（マトリックスパワータグ）43分18秒④下島将輝（那須ブラーゼン）43分19秒⑤阿部愛之（宇都宮ブリッツェン）43分23秒⑥雨沢毅明（同）43分44秒⑦鈴木譲（同）43分44秒⑧阿部航大（ホンダ栃木）43分49秒⑨水間健（同）43分49秒⑩飯野智行（宇都宮ブリッツェン）43分49秒⑪黒澤伸弥（同）44分12秒⑫岸崎仁（那須ブラーゼン）44分25秒⑬吉岡直哉（同）44分57秒、小泉亮一（ホンダ栃木）、小林宏志（同）＝以上途中棄権

ハイライト

若手の経験 チームに力

小野寺、岡

最終コーナーを立ち上がり、その先に見えたのはまっさらなフィニッシュラインと指揮官のガッツポーズだった。ゴールスプリントを制し、優勝をものにした宇都宮ブリッツェンの小野寺玲は「最高の勝利。みんなの協力があってこその勝ちだった」。2位の岡篤志も「余裕を持ってゴールできた。玲のことは刺せなかったけど」と笑った。

2015、16年とチームが表彰台の中央を守ってきた相性がいいレース。今回も全てがプラン通りだった。

残り5周を切ってから満を持して動いた。昨年王者の鈴木譲を中心に、それまで集団をコントロールしていたマトリックス・パワータグの隊列に割って入り、雨沢毅明、阿部愛之がジャブを打ってライバルの脚を消耗させた。

最終周回には主導権を完全掌握。阿部が発射台となり、小野寺と岡を連れて一気に先頭へ。180度の最終コーナーからのスプリントで他を引き離し、フィニッシュラインに飛び込んだ。「緻密な作戦だ。初参戦の世界選手権（ノルウェー）で力及ばず「屈辱的だった」と小野寺。岡は「国内選手で終われない」と世界のレベルを痛感。プロとして生きる上でのいい発奮材料にした。

世界と相まみえた若手に「実力はもちろん、自信もつけて帰ってきた」と指揮官。今季も残り2戦。若手とベテランの力を結集させ、チームはますます加速する。

（三谷千春）

チームワークが生きた」と清水裕輔監督も納得の勝利だった。

第19戦を制した雨沢同様、小野寺と岡も今夏、U23日本代表として欧州遠征に臨ん